

令和元年 10 月 21 日

10月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では 9 月後半になって天候も安定し、間伐材、皆伐材の生産は順調である。入荷は鹿沼・日光地区を中心に順調で、県北地区にやや遅れが見られていたが、ここに来て逆転している。新材への入れ替わり時期と製材業者の手持ち不足のため、荷動きは良くなっている。スギ材は小径材、柱材だけでなく、中目材の動きもよく、強保合いに転じているが、ヒノキ材は保合いで推移している。

群馬県では原木の出材が少なく集荷できない状況で、土場の在庫はゼロである。大手伐採業者が国有林の伐採に入り、民有林からの出材が減少したため、原木価格はさほどの値上がりはない。製材量は減少しているが、中間製品からの製材は順調。9 月は消費税増税に伴う受注が多少あったが、先行き見積等は少ない。製品在庫は少なく、貫、胴縁、がらヌキ(12×90)の在庫はない。製材品価格は低位安定で推移している。

2. 米材

米加産地では 8 月に伐採を 1 ヶ月休止したカナダ最大手の私有林シッパーの伐採が再開された。7/1 に開始されたカナダ製材大手の WFP のストライキは依然継続中である。私有林シッパーの伐採休止、州有林の立木価格の値上がりによる伐採抑制で港頭在庫は減少している。州有林の伐採抑制は長期化する見込み。ウェアハウザー社の 10 月積み対日価格(推定)はまだ決定していないが、産地側に下げ要因はない中で、欧州 RW 集成平角の先安感を基に値下げを要求する日本国内の需要家との綱引きが続く。北米市況は工場の閉鎖を受け、一時的には価格の反発はあるものの、盛り上がりには欠け、価格はほぼ同水準で推移している。中国への販売が苦戦しているため、日本への販売意欲は旺盛である。INTERFOR もスト権を確立しているが、まだストには至っていない。ランダムレングス紙発表の 15 種平均価格(9/27)は\$367 で 8 月末に比べ 2.8%アップ。

8 月の原木入荷量は 215 千 m^3 と回復、1~8 月累計で 1,709 千 m^3 (前年同期比 6.9%減)。出荷量は 215 千 m^3 、1~8 月累計は 1,669 千 m^3 (同 6.4%減)、在庫は 207 千 m^3 と前月と横ばいで、在庫率は 0.98 ヶ月。国内製材工場の稼働は引

き続き順調である。東京木材埠頭の9月入荷は16千 m^3 (前月比14.1%減)、出荷は19千 m^3 (同17.4%減)、在庫は46千 m^3 (同6.9%減)。在庫が全体的に多いため、荷動きに迫力が欠ける。

3. 南洋材

サバ州では天候良好だが、原木輸出再開の話が完全に消えた。サラワク州も天候良好で伐採は活発である。インド向けに通常の倍以上の船積があり、同時にインドの金融引き締めにより需要が低迷しており、今後、インド向けは減るだろう。最近、PEFCに準ずるマレーシア認証が取れた林区には通常の出荷枠以外に特別の出荷枠が取れることになった。PNG、ソロモンでは天候不順だが、通常どおりの出荷ペースである。10月予想の原木入荷・出荷は15千 m^3 、在庫26千 m^3 、製材品入荷は33千 m^3 。フリー板の市況は非常に悪い。

4. 北洋材

シベリア主要シッパーのアカマツ原木減、品質低下に変化はない。アカマツ野縁(30×40)の東京木材埠頭への8、9月入荷量が予想に反して増え、各社とも一定数量の対日向け生産は維持している模様。アカマツ完成品の産地価格は\$550以上を唱える勢いだが、日本は在庫増で静か。東京、川崎の在庫増によりアカマツ野縁の不足感は一旦無くなった。現地挽き原板の良材は高値を唱えているが、日本バイヤーは興味をしめさず、一部産地価格の調整も見られる。国内挽きの一部サイズは値上げを実行済みだが、高値コストで苦戦。各原板メーカーとも厚目の仕入を行ったので在庫は十分にあり、産地の高値には乗っていない。10月予想の原木入荷、出荷とも5千 m^3 、在庫は21千 m^3 。製品入荷量(東京+川崎)は20千 m^3 、出荷21千 m^3 、在庫37千 m^3 。

5. 合板

合板用原木について、国産材は東北のカラマツが依然、高値張り付き、スギ材は昨年と比べると比較的順調である。ロシア材は限定的な出材に変化はない。米材はやや強含みとなっており、徐々に出材量が減る可能性が出ている。南洋材は低水準のまま落ち着いている。

8月の国内合板生産量は26.5万 m^3 で、うち針葉樹合板は25.6万 m^3 となった。出荷量は25.2万 m^3 で在庫量は14.0万 m^3 となり、うち構造用合板は10.8万 m^3 である。針葉樹合板の価格は活発な荷動きが続き、依然在庫量が低水準のため、値戻しが進んでいる。先月の一部工場の火災で長尺の構造用合板に強い逼迫感がある。3×6品も品薄感が出始めている。輸入合板は落ち着いており、全体的に停滞している。8月合板輸入量は20.3万 m^3 となったが、依然低調な

入荷である。インドネシア産は平均的な輸入だが、マレーシア産は5月以降6万 m^3 台の少ない入荷が続いている。インドネシアでは乾燥した日が続き水位が低くなっており、原木の入荷遅れが出始めている。マレーシアは天候が安定しているが、原木価格の低迷により伐採量を抑制している。

6. 構造用集成材

9月のラミナ入荷は順調。各社、契約を減らしたこともあり、今後も入荷は減少する見込みである。価格は5ユーロ程下がっている。第4四半期のRW平角の交渉が長引いている。第1～第3四半期と値下げに応じてきたサプライヤーは悪化する産地工場の採算改善に向けて価格の見直しを図りたいところだが、日本の市況低迷、先行き不安を背景に慎重な姿勢である。現価格の維持を最低ラインとした交渉になる見込み。WW管柱は1,870円～1,880円/本、RW平角は57,000円～58,000/ m^3 (PC工場着価格)。スギ集成柱に不足感がある。

7. 木材チップ

大手製紙会社が針葉樹系を抑制しており、余剰分がバイオマス発電に流れている。製紙用針葉樹チップは過剰在庫の状態。解体材は定期修理、トラブル等により使用量が大幅に減少し、大幅な余剰感がある。各社受入制限を行っており、行き場のない材が溢れている。解体燃料は出荷が出来ず、過剰在庫状態が続いている。9月に解体材を主原料とした大型バイオマスボイラーの稼働も予定されているが、この状態の潮目がいつ頃変わるのか見通しが難しい状況である。

8. 市売問屋

国産材、外材ともに不足感のある材が見当たらない。構造材、造作材の動きが少ない。台風の被害(千葉県他)の修理・修繕も人手不足で材が動くまで進んでいない。消費税増税の駆け込み需要に注目していたが、材木店の反応がない。大手問屋筋によると、15号地、川崎港等での外材の動きはあるとのこと。

9. 小売

スギ、ヒノキ構造材とも大きな変動はない。米加材の現地挽きは先行きの荷動き次第で影響が懸念される。欧州材は欠品、品薄の物もなく価格は横ばい。ロシア材は増税前の駆け込み需要が顕著に見られた。上級材は依然として少ない。とくに3m材は非常に少なく、集荷に苦労している。価格は強含み。公共建築物の内装に産地指定のスギの見積が増えてきている。針葉樹合板の荷動きは堅調である。トラック不足による配送遅れが発生している。分譲系、集合住宅には駆け込みの物件が見られたが、町場ではほぼ聞かれず、需要期を迎えても動きは今一步の状況にある。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	→	→	→
	製材品	↘	→	↘
南洋材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸 入 量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	→	→	↗

3. 価格動向

樹材種	形 状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	↗
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	↗
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↘
			米マツ桁角 (GR) Std&Btr S4S 4・1/8" 13'	→
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	↘
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	↘			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	↗
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
		メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→	
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
	東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→	
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	→
			アカマツ (KD) 16×40上級	→
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	→
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↘
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→